



地にひそむ生命を腕に

令和7年度 佐伯市立昭和中学校 学校通信

NO.11

令和8年2月26日

文責:校長 川野 匡



3学期の学校評価アンケートより

この度、生徒と教職員を対象に「第3学期 学校評価アンケート」を実施いたしました。

今回の結果からは、生徒たちが「自分たちで学校を創る」という主体的な姿勢を強め、大きく成長した跡がはっきりと数値に表れています。

今回のアンケートで特に伸びが見られた、あるいは高い水準を維持した項目をご紹介します。

1. 仲間と協力し、主体的に取り組む姿勢

「仲間と決めたことに協力して取り組む」:肯定的回答 97.7% (前回比 +1.8ポイント)

「学級活動や行事で仲間と関わりを深める」:肯定的回答 94.9%

三学期、各学年で行われた行事や生徒会活動において、生徒たちが互いを認め合い、協力する姿がこの高い数値に繋がりました。特に「協力して取り組む」という項目が全校で向上したことは、本校が目指す「豊かに関わり合う姿」の具現化と言えます。

2. 学校生活への充実感

「学校が楽しい」:肯定的回答 94.4%

一学期、二学期と比較しても高い水準を維持しており、生徒たちが安心して学校生活を送れていることを示しています。

3. 体験活動とキャリア教育の成果(教職員評価より)

「キャリア教育(職場体験・高校調べ等)への取り組み」:肯定的回答 100%

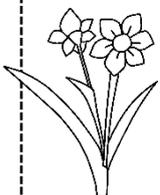
「行事等での生徒の主体的活動」:肯定的回答 100%

先生たちの視点からも、「昭和 FESTA」などを通じて伸びてきた、生徒が自ら考え行動する力が日常でも生かされていることがうかがわれます。

一方で、課題も見えてきました。「授業の内容がよく分かる(91.9%)」という項目は依然として高い数値ではありますが、前回と比較すると微減しており、より一人ひとりに寄り添った「わかる授業」の工夫が必要です。

また、「自分には良いところがある(84.2%)」という自己肯定感については、さらに高めていける余地があります。次年度は、日々の授業や生活の中で、生徒一人ひとりが自分の「強み」をさらに自覚できるような場面を意図的に創出していきたいと考えています。

生徒の皆さん、この一年間の自分自身の伸びを、ぜひ誇りに思ってください。そして教職員一同、この結果を真摯に受け止め、来年度も「ふるさとを愛し、豊かに関わり高め合う」昭和中学校を共に創り上げていく決意です。



弥生の空に

私は毎朝、校門に立って生徒たちを迎えることを一日の大切な始まりとしています。

月・水・金曜日は正門横で。火曜日は駐輪場の土手側で。木曜日は三年生の駐輪場で。場所を変えるたびに、そこには季節の移ろいがあり、そして何より、生徒たちの元気な「おはようございます!」という声があります。

元気に登校する姿を見ると、自然に笑みがこぼれてきます。

この時期になると、ふと胸が熱くなることがあります。それは、旅立ちを前にした三年生の「成長」の跡が、あまりに眩しく感じられるからです。

赴任した時の二年前、最初に声をかけたのは当時二年生の男子でした。そのときのことをいまでも鮮明に思い出すことができます。幼さの残った彼らが、今では見違えるほど背が伸び、顔つきも精悍になりました。

しかし、私が何より心を打たれるのは、外見の変化以上に遅くなった「心の成長」です。最近の駐輪場での挨拶には、どこか照れくさそうな、それでいて三年間やり遂げたという自信に満ちた、大人の表情が混じるようになりました。こちらが声をかける前に、遠くから挨拶をくれる姿や、深々と丁寧な会釈を返す姿に、彼らが築き上げてきた時間の重みを感じずにはいられません。

「挨拶」は、相手を思いやる心の現れです。この三年間、彼らは葛藤や喜びの中で、自分を磨き、立派な一人の人間として成長してくれました。

学校は、ただ知識を学ぶだけの場所ではありません。こうした日常の何気ない姿の中にこそ、私たちが誇りに思うべき「教育の結実」があるのだと、卒業を目にした彼らの姿が教えてくれます。

来週、三年生はこの学び舎を巣立ちます。希望と少しの不安、そして三年間を共にした仲間への愛着を胸に抱く彼らを、私たちは最高の舞台で送り出したいと考えています。

木曜日の朝、あと何度交わせるか分からない三年生との挨拶。その一言一言を噛み締めながら、今朝もまた校門に立ちたいと思います。

